

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 (財)石川県国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

県内で活動する地域日本語教室およびそこで教える日本語講師、日本語サポーターを支援するため、各地の地域日本語教室の課題を拾い上げ、その解決につながるよう出前型の教員研修の機会を提供する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
12月19日	石川県国際交流センター	星 亨 金谷 由美 福田 紀子 山森 通子	白山市、七尾市での出前講座について	七尾市の教室では比較的オーソドックスな学校型の授業が行われ、それに即した研修内容が求められた。白山市では相互交流型の日本語授業に関心を持っている。
1月12日	石川県国際交流センター	星 亨 今井 武 桜井 正美	内灘町、かほく市、金沢市での出前講座について	内灘町では在住外国人の生活場面を取り上げながらいかに文法もそこに入れていくかが課題となっている。かほく市では相互交流型の授業に関心を持っている。野町小(金沢市)では児童の保護者に対し日本語教育を行っており、細かなニーズにいかに対応するかが課題となっている。

3 講座の内容について

- (1) 講座名:日本語講師スキルアップ塾 出前講座
- (2) 目標:県内各地の日本語教室が抱えている課題を、各教室別に出張して研修講座を行うことで解決の方法を共に考える。
- (3) 受講者の総数 50人

(出身・国籍別内訳 日本人 49 人、中国人 1 人)

(4) 開催時間数(回数) 57時間 (19回)

講義 57時間 (19回) 実習 時間 (回)

(5) 参加対象者の要件: 県内各地の日本語教室で活動している方、活動しようとしている方

(6) 受講者の募集方法

県内の各日本語教室にチラシを送付。

(7) 会場

白山市国際交流サロン、ワークパル七尾、かほく市立宇ノ気図書館、金沢市立野町小学校、内灘町文化会館

(8) 使用した教材・リソース: 「にほんご宝船」「にほんごこれだけ!」「みんなの日本語」「標準的なカリキュラム案」「リソース型生活日本語」

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9 月 4 日 13:30-16:30	相互交流型日本語授業体験 1	白山市国際交流サロン (財)石川県国際交流協会講師 今井 武	15 人
9 月 11 日 13:30-16:30	相互交流型日本語授業体験 2	白山市国際交流サロン (財)石川県国際交流協会講師 星 亨	17 人
9 月 25 日 13:30-16:30	相互交流型日本語授業の進め方 1	白山市国際交流サロン (財)石川県国際交流協会講師 今井 武	20 人
10 月 16 日 13:30-16:30	相互交流型日本語授業の進め方 2	白山市国際交流サロン (財)石川県国際交流協会講師 星 亨	8 人
10 月 22 日 13-16	初級レベルの教え方の基本	ワークパル七尾 石川県日本語講師会講師 金谷 由美	6 人
11 月 19 日 13-16	「みんなの日本語」全体の構成	ワークパル七尾 石川県日本語講師会講師 山森 通子	10 人
12 月 3 日 13-16	「みんなの日本語」を使った授業の組み立て方	ワークパル七尾 石川県日本語講師会講師 福田 紀子	5 人
12 月 17 日	「みんなの日本語」を使	ワークパル七尾	5 人

13-16	った授業の組み立て方	石川県日本語講師会講師 福田 紀子	
9月3日 10-13	国内外の日本語教育、マ インドマッピング	かほく市立宇ノ気図書館 (財)石川県国際交流協会講師 星 亨	4人
9月17日 10-13	地域日本語教室で行う授 業の組み立て方	かほく市立宇ノ気図書館 (財)石川県国際交流協会講師 今井 武	6人
10月15日 10-13	「にほんごこれだけ！」 を使って授業を考える	かほく市立宇ノ気図書館 石川県日本語講師会講師 桜井 正美	6人
11月5日 10-13	「にほんご宝船」を使っ て授業を考える	かほく市立宇ノ気図書館 石川県日本語講師会講師 桜井 正美	3人
12月2日 8:40-11:00	「みんなの日本語」「子育 て日本語表現」を使った 授業	金沢市立野町小学校 (財)石川県国際交流協会講師 星 亨	5人
12月9日 13:50-16:10	目的別、学習者別の授業 の組み立て方	金沢市立野町小学校 (財)石川県国際交流協会講師 今井 武	5人
12月16日 13:50-16:10	学習者自身の自己モニタ リングによる授業の組み 立て方	金沢市立野町小学校 (財)石川県国際交流協会講師 星 亨	5人
10月15日 13-16	相互交流型日本語授業の 進め方1	内灘町文化会館 (財)石川県国際交流協会講師 星 亨	5人
10月29日 13-16	相互交流型日本語授業の 進め方2	内灘町文化会館 (財)石川県国際交流協会講師 今井 武	7人
11月12日 9:30-12:00	「大地」を使った授業	内灘町文化会館 石川県日本語講師会講師 桜井 正美	6人
11月26日 13-16	「大地」を使った授業実 習	内灘町文化会館 石川県日本語講師会講師 桜井 正美	6人

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

各会場ともに出張型の研修講座は、わざわざ金沢まで出向かなくて済み、また各教室の参加者だけが対象となるため質問や要望にも気兼ねが必要なく、非常に好評だった。相互交流型授業については評価が分かれ、「楽しい」、「雑談から脱することができる」等の肯定的な意見がある一方で、「教えている/学んでいる実感が無い」、「臨機応変な対応が自分には難しい」等の意見も聞かれた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

県内各地で活躍するボランティアベースの講師に地元での研修機会を提供するという目的は達成できたと思う。ただし、研修内容の希望は教室によってかなり違っており、3時間×4回という時間数、回数では不十分で、より継続的な中長期の支援を必要としている教室もあった。逆に、日本語を教える上での練習の方法や指示の出し方など、多くの教室の講師が共通して持っているであろう課題もあり、そのような課題についてはいくつかの教室をまとめて研修をすることもできそうである。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

出張型の研修は今後も継続して行う。ただし、今年度のような短期のものに、より中長期の支援を行える研修や、地区別に日本語を教える上での具体的なスキルの研修会なども加え、様々なニーズに、より柔軟に対応できるような態勢を気づいていきたいと思う。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

まず、出前講座のため各地の教室に出向くことで、それぞれの地域や教室でどのようなことが課題になっているのかを知ることができ、それが当協会が行う教員養成講座や日本語教室支援に与える影響は非常に大きく、県全体の多文化共生施策の推進にも少なからず影響を与えていると思う。

また、金沢で実施するのではなく、こちらから出向くことで、各教室やそこで教える先生方に外部からの支えもあることを感じてもらっているのではないかと思います。

② 研修後の人材活用

研修を受けた人材をどのように活用するかは、基本的にはそれぞれの教室にゆだねられる。

しかし、出前講座開催をきっかけに各教室と当協会とのパイプは太くなってきており、当協会からの情報や研修機会の提供、各教室からの要望や課題の吸い上げは以前より活発になっている。

(12) 今後の課題

出張型の研修は、今後以下の点について再検討したい。

①研修内容の充実

今後は「標準的なカリキュラム案」等も用い、より地域日本語教育に適した教育方法や授業内容について研修でも扱えるようにするとともに、どうすれば各地のボランティア講師にわかりやすく理解してもらい、実際に役立つものとなるか、研修の方法、内容を見直していきたい。

②回数・時間数の多様化

今後は、今年度のような「出張型」「短期集中型」の講座と、中長期に渡ってひとつの教室と関わる「滞在型」の講座に、講座を多様化できればと思う。